

SOCIETY FOR INFORMATION DISPLAY

Newsletter

日本支部

第33号

発行元：SID日本支部

発行責任者：篠田 傳

発行日：2006年09月17日

起業家精神を育もう SID日本支部長 篠田 傳



SID日本支部の技術者、研究者に「起業家精神」と「チャレンジ精神」を持ってもらいたいと企画したシリーズも4回目を迎えた。私も最近新しい技術に挑戦し、ベンチャーを立ち上げようとしている。新しい技術を

世に生み出したいという気持ちは、幾つになっても衰えないものである。若いときに、大きな組織内に居てチャレンジ精神を養うのもよし、小さな組織内に身をおいてそれを養うのもまたよし。起業家精神は大企業にいても、中小企業にいてもどこでも養うことができるし、どこでも発揮できるものだと思う。少し私の経験を紹介し、若い皆さんの参考にしたい。

私が富士通に入ったのは1973年である。最初は富士通明石工場の富士通研究所に配属された。PDPをあまりよく理解せずに、たまたま大学の専攻の関係からこの道に入った。まだPDPもモノクロの研究開発が途についたばかりである。富士通研究所に入って数年間、保護層の研究など好きなことに取り組んだ。しかし私が本当にやりたいもの、夢といえるものに出会ったのは、1979年から始めたPDPのカラー化である。この頃モノクロPDPの研究テーマはほぼ完了して、次はELの研究テーマが与えられた。しかし、私はPDPへの愛着を捨てきれず、業界の誰もがあきらめかけていたAC型のカラーPDPのテーマに取り組むことにした。不思議なもので、たまたま始めたPDPだったのに、人生をかける夢になった。「目の前のことを一所懸命やると夢が見えてくる」ものである。カラーPDPの研究を最初はこっそり始めたが、試作品を見て驚いた。モノクロに負けるとも劣らない明るさの赤、青、緑の発光が見られた。喜び勇んで上司に報告し、カラーPDPの研究が出来るように頼んだ。意外とあっさりOKが出た。しかし、

人生はそんなに甘いものではなかった。1981年(33歳のとき)に肝臓病を患ってしまった。病院にいくとすぐに入院して3ヶ月の療養をするようにといわれた。この後、入退院を繰り返し、結局2年間の闘病生活を送った。なかなか治らず、最後は漢方医「故岡田一好先生」に助けられた。『よくかむこと』、『少食にすること』、『少し体を動かすこと』で自然治癒力を発揮させるという先生の教えを忠実に守り劇的な快復を見た。今から思えば、この選択も窮地に陥った上でのチャレンジであった。「とどまっていたは、危機から救われないこと」を学んだ気がする。1984年については復活を果たしたが、富士通研究所はPDPの研究を中止していた。やむを得ず、私はPDPの製造をしていた明石工場の事業部に転籍した。ここでも液晶のテーマを打診されたが、カラーPDPの研究を願い出て、かろうじて継続できた。作業員の皆さんに協力を頼み、製造の合間を縫って製造装置を使い研究開発を細々と続けた。といっても、製品化に成功したのは1989年の3色PDPである。5年間工場ではカラーPDPの研究だけに専念することを許されるはずはなかった。モノクロPDPの製品の設計、開発、歩留まり向上などを進める傍ら、研究を継続した。この間、ほとんど個人的な努力によるものである。1980年代後半になるとLCDがライバルとして発展してきたために、モノクロPDPの製品も尽きてしまい、カラー化が求められるようになった。ようやく私の技術の出番が来た。このとき、株価表示装置のメーカーから3色カラーPDPの製品化開発を依頼された。この時以来、カラーPDPは事業部をあげてのテーマになった。長い間の努力が開花するチャンスを迎えた時期である。2年間での製品化の約束が3年になったが何とか成功させた。この成果はさらに、21型フルカラーPDP、42型カラーPDPの開発につながり、PDPは決定的な成功への軌道に乗った。

私の富士通におけるこれらの行動を、「企業内起業家精神」と評される方がいる。一方、最近、私は、「富士通研究所での篠田フェロー室」、「次世代PDP開発センターでの集中研究所」、「東京大学での次世代ディスプレイ寄付研究部門」など、小さいながらも3つの新しい研究組織を立ち上げた。「超大画面壁面ディスプレイの研究開発」、「低消費電力PDPの研究開発」、「次世代PDP技術開発と人材育成」がそれぞれの新組織でのテーマだが、ようやく一人前に動き始め成果が出つつある。このような経験を通して、ほとんど基礎の無いものから新しい組織を作り、新しい製品や技術を作り出すことに、魅力を感じるようになった。

2年前、残念ながら富士通はPDP事業から撤退することを決めた。世界の最先端を走っていた事業から撤退することは富士通にとっても苦渋であり、私にとって信じられないことであった。しかし、富士通の事業セグメントを考えると、今となってはやむをえない面も感じている。新しい技術と産業を生んだことは富士通の貢献であり、また技術者としての私の喜びでもある。余談だが、富士通と私はディスプレイ業界で事業を進めることができたことを感謝して、SIDにSlottow-Owaki賞の設立をお願いした。ディ

スプレイ業界の人材育成に貢献された教育者、研究者、技術者などに贈られるものである。一方、私は将来技術のひとつとしてプラズマチューブアレイ(PTA)技術による超大画面ディスプレイの研究を進めている。これについては、私は挫折をするわけにはいかない。若い技術者と一緒に夢を追いつける決心をした。超薄型、軽量、フレキシブルな超大画面映像装置を実現し、新しい映像社会を実現すると同時に、技術者の夢を実現できる会社にしたいと考えている。企業経営はまったく未知の世界だが、未知の領域を一步ずつ切り開いて前に進むのもまた面白いものだと感じている。

最後に5つの言葉を皆さんに贈りたい。これは私の経験から、研究開発を成功させるためのステップをまとめたものである。①夢を育む、②成功を信じる、③ともかくやってみる、④考えて考えて考え抜く、⑤決してあきらめない。この5つのステップは成功のチャンスを広げるステップである。研究開発の過程の中で起こる機会を捉え、成功する確率を大いに高めるものだと信じている。

若者に語りたい、“大きな夢を育み、挑戦して、充実した人生を送れるように”と。

Journal Of SID, Symposium Digest のダウンロード方法

SID日本支部

ご存知のように、SIDホームページからJournal of SID、Symposium Digestの論文PDFが閲覧(およびダウンロード)できます。多くの会員の方からダウンロードが出来ないとの問い合わせを頂いており、今回その手順を以下に説明します。(紙面の都合により簡易な説明となっておりますが、詳細はSID日本支部のホームページ(http://www.sidchapters.org/japan/j_SID_prev.pdf)を参照下さい。

- ①. まずSIDホームページ(www.sid.org)を開き、中央上側にある、“JSID On-Line & Symposium Digests”をクリックします。(図1参照)
- ②. ページ上側にある、二つのリンクのうち閲覧したい方を選びます。(図2参照(ここでは省略))以降では“Journal of the Society for Information Display”を選択したとして話を進めます。
- ③. 図3のようなページが開いたら、左側のメニューから閲覧方法を選びます。例えば最新号を見る場合は、図のように“Current Issue”をクリックすると、図4のように論文リストが現れます。
- ④. 論文を見るには、各論文の“PDF”というリンクをクリックします。

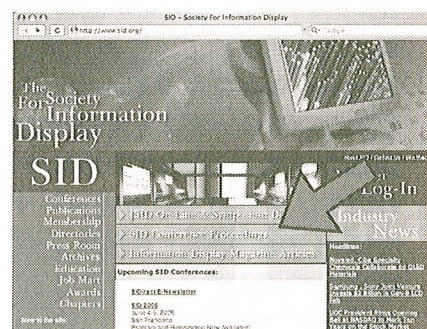


図1

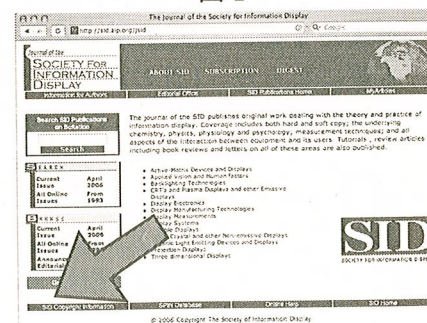


図3

⑤. このときに図5のように、ログインを促す画面が出てきたら、論文閲覧用のusernameとpasswordを入力してください。なおこのusernameとpasswordはSIDのページにログインするものとは別です。

usernameとpasswordはAIPのページで事前に登録しておく必要があります。まだ登録していない方は次の⑥を参考に登録してください。既に登録してあるが忘れてしまった場合は右図下側の矢印の指すところにある“Forgot your password?”というところをクリックし下の⑦以降を参考に仮パスワードを入手してください。

⑥. 論文閲覧で使用するusernameとpasswordは https://ojps.aip.org/jhtml/registration/sid_reg.jsp で登録することができます。(図6参照)なお登録にはPass Codeが必要になります。このPass Codeは、未登録者に対して毎月20日頃に onlinehelp@aip.org から送られて来るメールに記載してあります。もしこのメールを破棄してしまい、わからない場合は、onlinehelp@aip.org あてに、自分のSID会員番号を知らせPass Codeを入手してください。

⑦. “Forgot your password?” をクリックすると図7のようなページがでてきます。ここで“<http://scitation.aip.org/forgetpassword.jsp>”とあるリンクをクリックしてください。

⑧. 図8のような画面が開くので、下側にあるテキストボックスに、いつもSIDからのメールを受け取っているメールアドレスを入力しRetrieveボタンを押します。するとパスワードがメールで送られて来ます。もしここでエラーが表示された場合、メールアドレスが間違っているか、もしくはAIPの登録がすんでいない可能性があります。後者の場合は、⑥に従って登録してください。

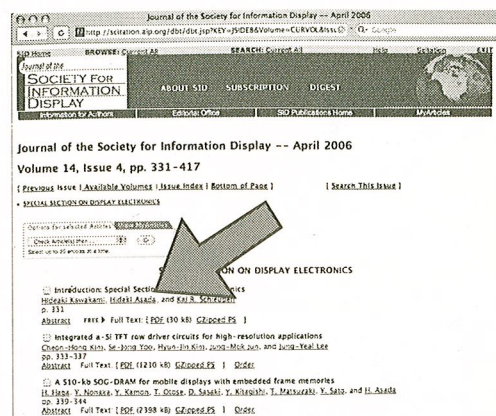


図4

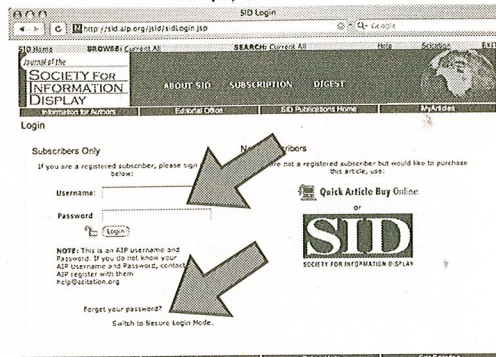


図5

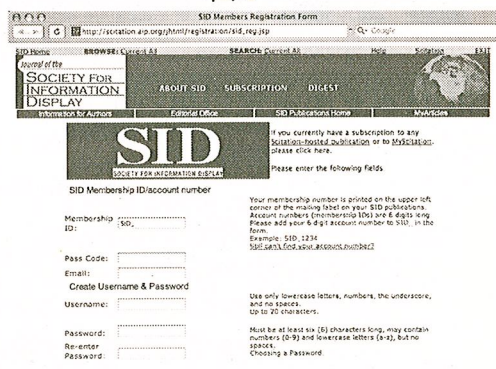


図6

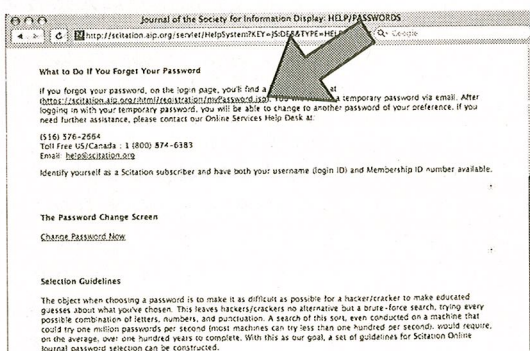


図7

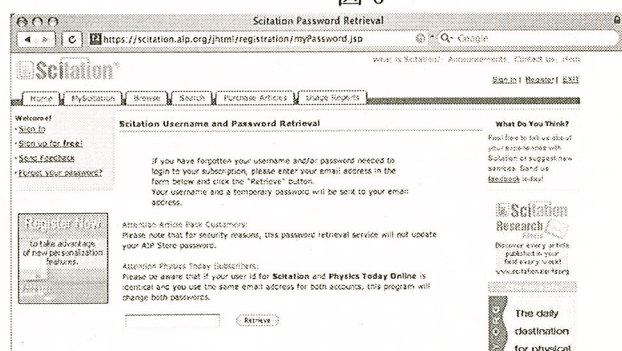


図8

2006年度 SID受賞者の声



Fellows of the SID 菅原 恒彦 (旭硝子(株))

長年、CRT、FED等の真空エレクトロニクスディスプレイ用ガラス材料や容器構造の研究開発に取り組んできました。この間、何かにつけて日本支部の先輩諸氏をはじめ社内外の多くの方々のご指導やご協力をいただきました。お蔭様で、自ら挑戦する姿勢を崩すことなく幾つかの課題を解決できて今回の受賞につながったものと痛感しております。この場をお借りして、あらためて皆様方に感謝を申し上げます。甚だ微力ではありますが、これからも部材屋の立場で山積する難題に立ち向かいディスプレイの発展に尽くしたいと思っております



Special Recognition Award …… 分元 博文 (東芝松下ディスプレイテクノロジー(株))
 この度は思いもかけず、OCB-LCDの開発に対して大変名誉ある賞をいただき、誠に光栄に存じます。開発に関与された社内外の多くの方々への代表としての受賞と認識しており、ご関係の皆様方に深く感謝申し上げます。また、ご推薦いただいたSID日本支部の皆様方に心より御礼申し上げます。20年前のTFT-LCDの黎明期からLCD開発に係わってきましたが、この間の進歩は目を見張るものがあり、この分野の研究開発に参加できたことに大きな喜びを感じております。今後もLCDの更なる進歩に対して、微力ながらお役に立ちたいと存じます。



Special Recognition Award …… 金澤 義一 (富士通日立プラズマディスプレイ(株))
 カラーPDPの開発に携わり20年目の節目となる年に、このような素晴らしい賞を頂き感激しております。80年代後半から90年代初頭にかけての苦しい時期、展示会でのトラブル、世界初となる21型カラーPDPの実用化、また42型カラーPDPの開発、ALIS方式の開発等、カラーPDPの成長を通じて、自分もエンジニアとして成長させられたと思います。最後に、SID日本支部の皆様をはじめ受賞に際しサポート頂いた方々に深く感謝申し上げます。



Special Recognition Award …… 浅田 秀樹 (NEC液晶テクノロジー(株))
 このたび、低電力・高集積システムオングラスLCD/OLEDの研究開発に対し、名誉あるSpecial Recognition Awardを頂きました。ご推薦・ご賛同頂いた皆様、研究開発を共に行ってきた職場の皆様、心から御礼申し上げます。長年研究してきたTFT回路/応用デバイスの分野で受賞できたことを大変うれしく思います。ガラスの上に回路を集積化するシステムオングラス技術は、日本が先行している高付加価値技術の一つです。今後は、その大きな技術ポテンシャルに見合う応用デバイスの開発と市場の開拓を目指していきたいと考えてます。

SID日本支部主催の第2回サマーセミナーに参加して

市川慎吾(静岡大学)

今回サマーセミナーに参加させていただき、普段の生活では経験することができない貴重な時間を過ごさせていただきました。このような機会を与えてくださった皆様方にとっても感謝しています。講演ではディスプレイ分野において、第一線で御活躍されている先生方が、とても分かりやすく丁寧な解説をしていただいた為、大変勉強になりました。このセミナーは若手の研究者や技術者を対象にしているため、各種ディスプレイの基礎から、その開発までといった流れで講演が進められ、非常に理解しやすかったと思います。また講演以外でも懇親会を通して、先生方や社会人の方々とお酒を飲みながら楽しく交流を深めることができました。普段なかなか聞くことができない社会人の方々の生の声を聞くことができたことも貴重な経験になりました。学生の場合、なかなかこのような機会には恵まれなと思いますし、これからの自分にとって役立つものばかりだと思うので、みなさん是非参加されてみてはいかがでしょうか。

酒井紳伍(電気通信大学)

私はPDPの駆動方法を専門に研究しており、他の方式のディスプレイについての知識はほとんど持っていませんでした。しかし、PDPを始めLCD、OLED、FED、有機ELなど様々な方式のディスプレイについて、基礎から応用までを解り易く講義して頂き、非常に勉強になりました。懇親会では、講義をしていただいた先生方を始め、普段接することの無い社会人の方々など多くの方々が気さくに話しかけてくださり、様々なアドバイスを頂いたりするなど、今後の研究の励みになることが多々ありました。また、様々な企業の方々から各企業の良い点や、職場の雰囲気などを聞くことが出来たことも、これから就職活動を控える身としては、非常に貴重な経験でした。

この様に、今回のセミナーはこれから社会に出ようとする学生にとって、ディスプレイを勉強する上でも社会のことを学ぶ上でも、非常に有意義なものであったと思います。最後に、企画から当日の運行に至るまでセミナー実行委員の方々には大変お世話になり、感謝いたしております。

学会発表時の支援制度 (SID日本支部より)

本年度の今後の対象は、IDW'06です。主な内容としては、

- ◆支援額：IDWにおける学生員の参加費程度とし、評議員会で当年度の金額を決定する。
- ◆支援対象学生：IDWにて、プレゼンティングオーサーとして研究・開発報告(OralまたはPoster発表)を行うSID日本支部に所属する学生会員。(当日の

SID会員手続き可能)

◆申し込み方法等詳細は、<http://www.sidchapters.org/japan/J-cont-8.htm> を参照下さい。

編集後記 次号34号掲載希望の内容がありましたら、ご連絡下さい。 編集担当：村井隆一 (松下電器産業(株))
 murai.ryuichi@jp.panasonic.com